

教員名	永瀬 伸子 (NAGASE Nobuko)
所 属	人間文化研究科ジェンダー学際研究専攻ジェンダー論講座
学 位	博士 (経済学) (1995 東京大学)
職 名	教授
URL / E-mail	http://www.soc.ocha.ac.jp/Site/Teacher_Nagase_Results.html / nagase@cc.ocha.ac.jp

◆研究キーワード

女性労働 / 家族 / 社会的保護 / 賃金構造 / 非正規労働

◆主要業績

総数 (13) 件

- ・永瀬伸子 (2006) 「雇用流動化に対応しかつ日本の家族観にあう社会的保護の制度を問うーコメントにかえて」『家族社会学研究』第17巻2号 51-55頁。
- ・Nobuko Nagase (2006) "Japanese Youth's Attitudes Towards Marriage and Child-Rearing" Mark Rebeck and Ayumi Takenaka eds. *Economic Change and Japanese Families* Routledge.
- ・山重慎二・大田弘子・白羽瀬佐和子・永瀬伸子・樋口美雄「シンポジウム 少子化問題を考えるー財政の役割？」日本財政学会編『少子化時代の政策形成』財政研究第2巻 有斐閣 3-60頁。
- ・『就業履歴と社会構造変化に着目した社会保障制度と再分配の帰着の分析報告書』(文部科学研究費基盤研究C補助金 課題番号15530152 平成15-17年度 研究代表者 永瀬伸子)(全113頁。)
- ・永瀬伸子 (2006) 「非正規雇用の拡大と女性の社会進出」全労済協会『Labor Research Library』第12号 9-12頁。

◆研究内容

労働経済学の分析枠組みを用いて、労働、結婚、出産行動と就業との関係、家族形成、さらには、社会的保護の仕組み(年金、保育、介護、失業等に対する保護の仕組み)の在り方について研究をしています。労働の分野では、就業選択、雇用形態、労働時間、非正規雇用と正規雇用の格差、労働組合をテーマとして研究しています。

引き続き北京、ソウルのパネル調査を実施、東アジアの女性と就業を日本と比較しています(2006年は2年度目調査を実施しました)。また文部科学研究の代表者として『家計内配分とジェンダー統計の研究報告書』(文部科学研究費基盤研究C)を3年の成果としてまとめました。内閣府の『少子化社会に関する国際意識調査』に参加、また「少子化社会」というテーマのもとで連合総合経済開発研究所の研究会や財団法人シニアプラン開発機構の『第2回独身女性(40~50代)を中心とした女性の老後生活設計ニーズに関する研究』に参加しました。

◆教育内容

「労働経済学」「社会保障論」「労働経済学演習」、「労働論」等を大学、大学院で教えています。まずは標準的な労働経済学の講義をしています。雇用と労働時間、失業と職探し、離転職や引退、労使関係、雇用者保護の制度などについてです。一方「労働経済学各論」等では、私自身の研究テーマである女性労働と社会的保護の制度、東アジアの女性労働と家族の比較からテーマを選びます。今年は少子化と女性労働の国際比較をテーマとした授業、所得格差と女性労働の問題をテーマとした授業、博士の研究発表を中心とした授業を持ちました。また学部専門英語では native speaker との team teaching に挑戦しました。また東京労働大学では企業の人事部等のサラリーマンを相手に女性労働の現状について講義をしたり、総務省統計研修所では統計を用いた計量分析の講義をしたりすることはほぼ毎年しています。

◆Research Pursuits

My research field is in Labor Economics: Female labor supply in Japan and the social protection system surrounding work and family.

My research interest has been in marriage timing and birth timing and how work choices relate to such choices for Japanese females. I am also a member of Center of Excellence Program of 21st Century in Ochanomizu University, "Frontier of Gender Studies", and through this program, we are conducting panel survey in Beijing, China and Seoul, Korea, to be compared to data collected in Japan. In 2006, we made our second and third year survey.

I also participated in research held at the Cabinet Office about Attitude towards Declining Birth Rate. I also was a member of research group concerning declining birth rate held at Labor Union based laboratory, and also another concerning single women's economic life at old age.

◆Educational Pursuits

I teach different level of classes for Labor Economics and Social Policy. Spring courses in general covers various topics in Labor Economics, such as employment, unemployment, job search, job turnover, while relating to institutional aspects of labor in Japan, such as labor union, changes in wage policies at various companies, increase in non-standard employment, changes in law regarding to work rules and coverage of social protection.

For the winter semester of 2006, I targeted on international comparison of women's labor participation and child care for undergraduate level course.

I had a course in income distribution changes in labor market for masters' students. I am a member of COE Program of 21st Century, and am conducting panel survey in Beijing and some of the results were also introduced at the class.

I also had seminars for doctorate students.

◆共同研究例

少子化と女性労働

◆将来の研究計画・研究の展望

COE ジェンダー研究のフロンティアで、北京およびソウルのパネル調査の実施にかかわっていますので、これらの他の東アジア諸国の女性労働と家族とのかかわりを日本と対比し、さらに欧米諸国と対比した上で、社会的保護の制度のあり方について考察したいと考えています。その際には少子化、家族、労働供給、社会保障などをキーワードとします。また労働組合の研究ももう少しすすめたいと考えます。

◆受験生等へのメッセージ

女性が働くことと、社会的な制度のあり方、さらには社会規範や家族のあり方は深くかかわっています。仕事と家族の両立支援策は、1990年代から行われているように見えますが、なぜ実効を伴わないのでしょうか。なぜ日本の女性の出産離職は今でも大変高いのでしょうか。そのメカニズムについて考察するには、一方では、社会への洞察が不可欠です。具体的には、企業の賃金制度や雇用慣行、法律の枠組み、税制や社会保障制度などです。その一方で、文化的な土台や家族の価値規範の研究も必要です。制度を調べ、聞き取りをし、大勢の人々の選択行動のデータを計量的に分析することで、要因を明らかにするのが私の研究です。私の属する講座や大学院のコースには、この問題を考える幅を広げるに良い学際的な土壌があり、この問題を真摯に考える人には良い場所を提供すると思います。